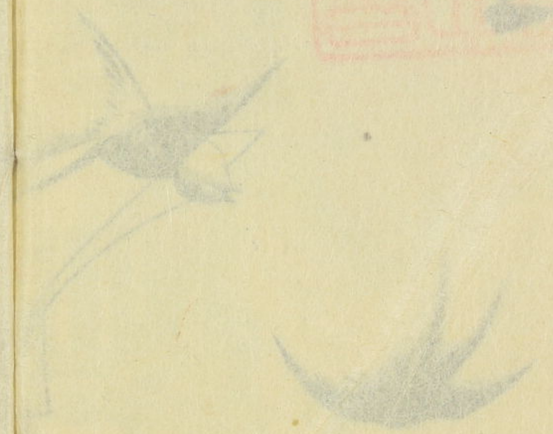
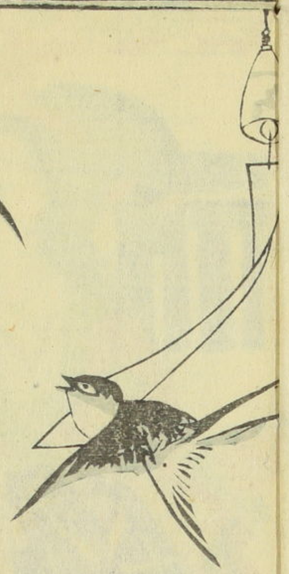
へ 13
4087
3





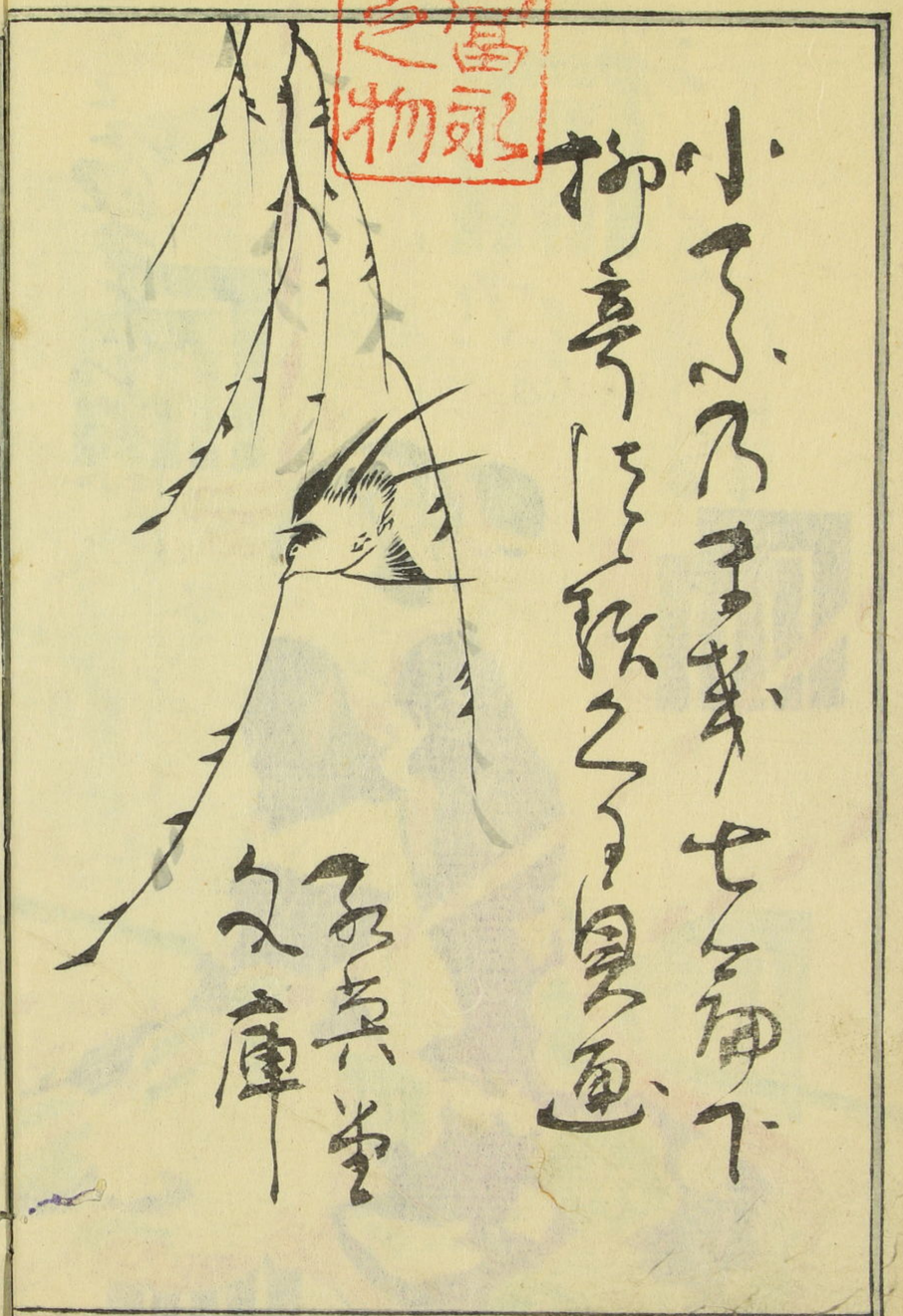
朝陽の

七ヶ間

上巻

門 へ 13
號 4087
卷 3

49 2599



草冊子の作は博識の眼よりえれがいとも脆耎きうぎすれど
吾儻は腸を絞て精根を竭ても些少の一篇全備うなて
几に隠て喘ぐも平生なり草冊子を嗜ふまふ人達も
亦情に逼り拙作にさへ泣ゐひ笑ふめふも有ときくは件の
苦心かひ有て片想なれ世中なるか那さまが作者と雲顧君子は
一度對面せざれども此世ならぬ縁ありて離るゝ中は菜花に
蝶睦じきゆも侶ふりけり花も虫も自然の理にて
蝶の翅四片なれば菜花も亦四葩あるは造化の妙といふ
べきに紫陽花も又四葩なれど蝶の止りし噂もきくぬは
數変る色を疎むかさあらば作も易らぬが宜しからんと
此編も四ちり小蝶と秋津の事を古めかしくも綴了ぬ

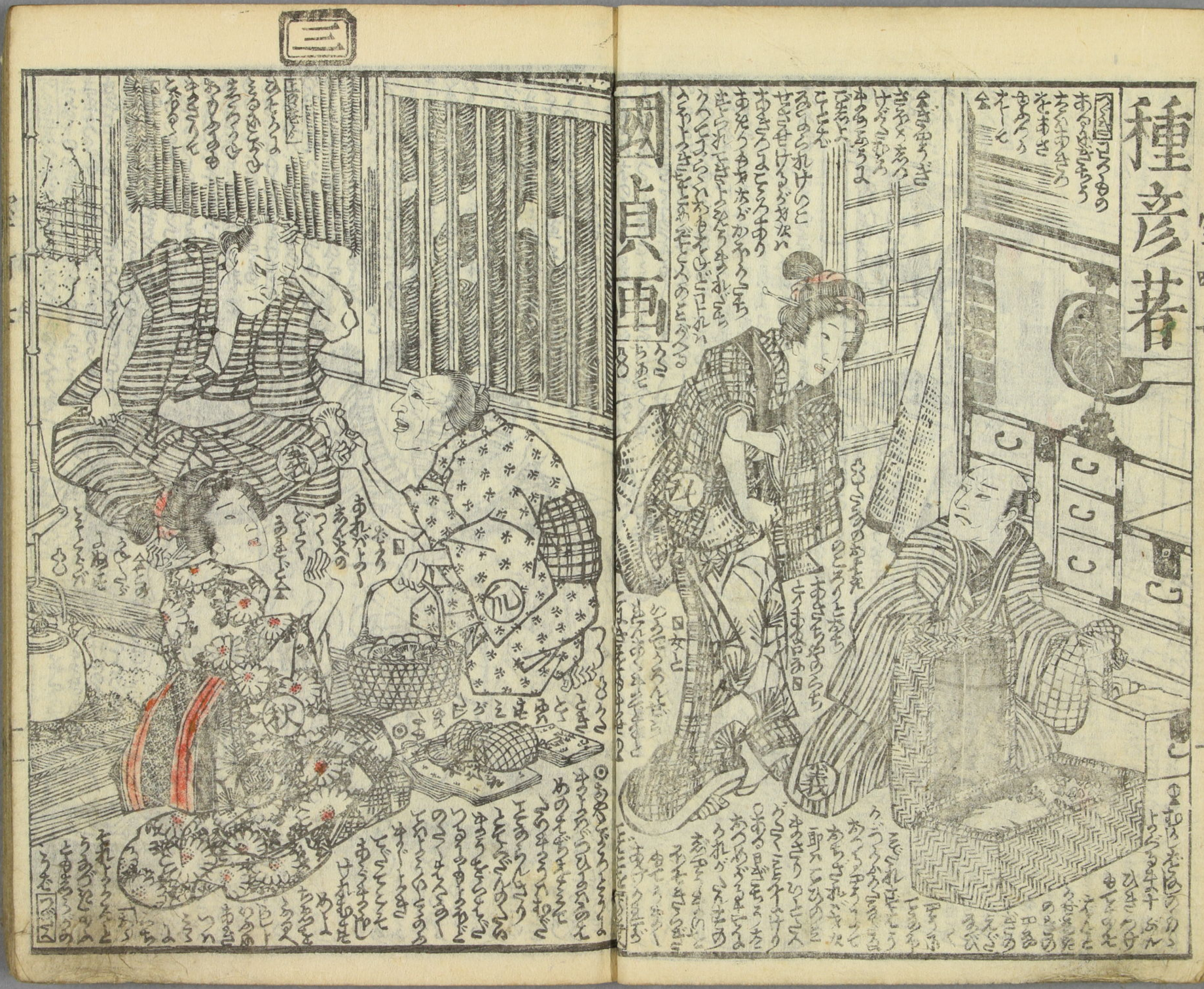
種彦自序

泰山府君
女優
木花咲弥
室田七

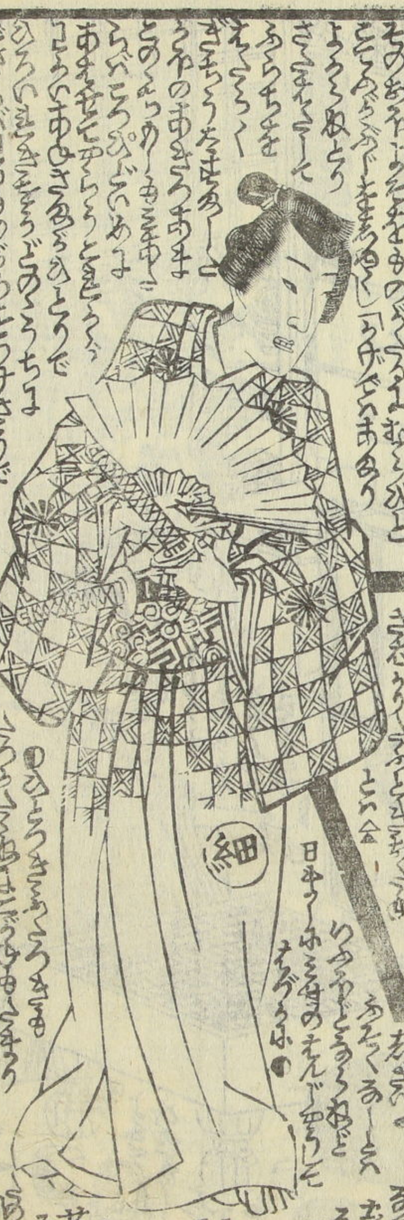
三近観

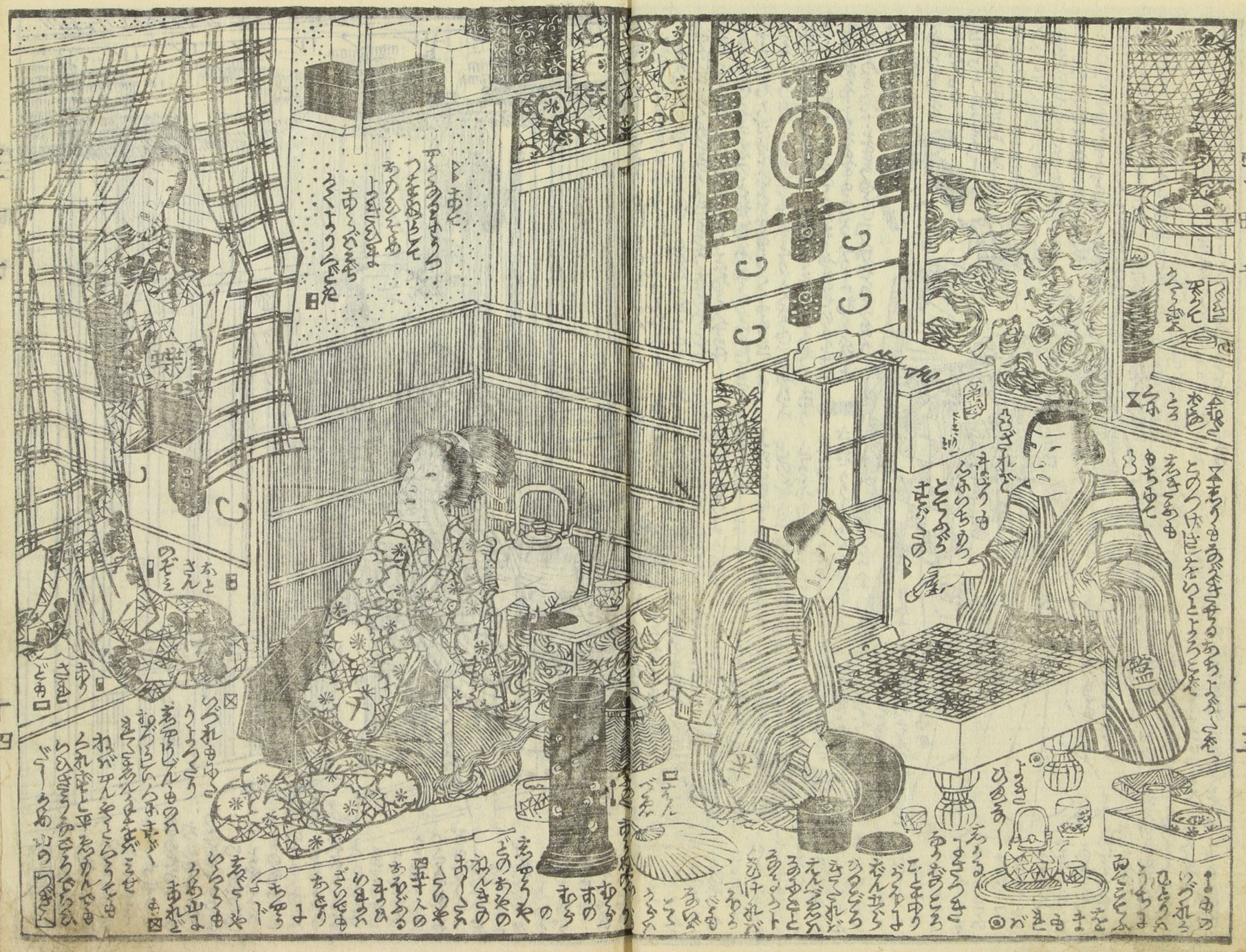
察過指来現神通

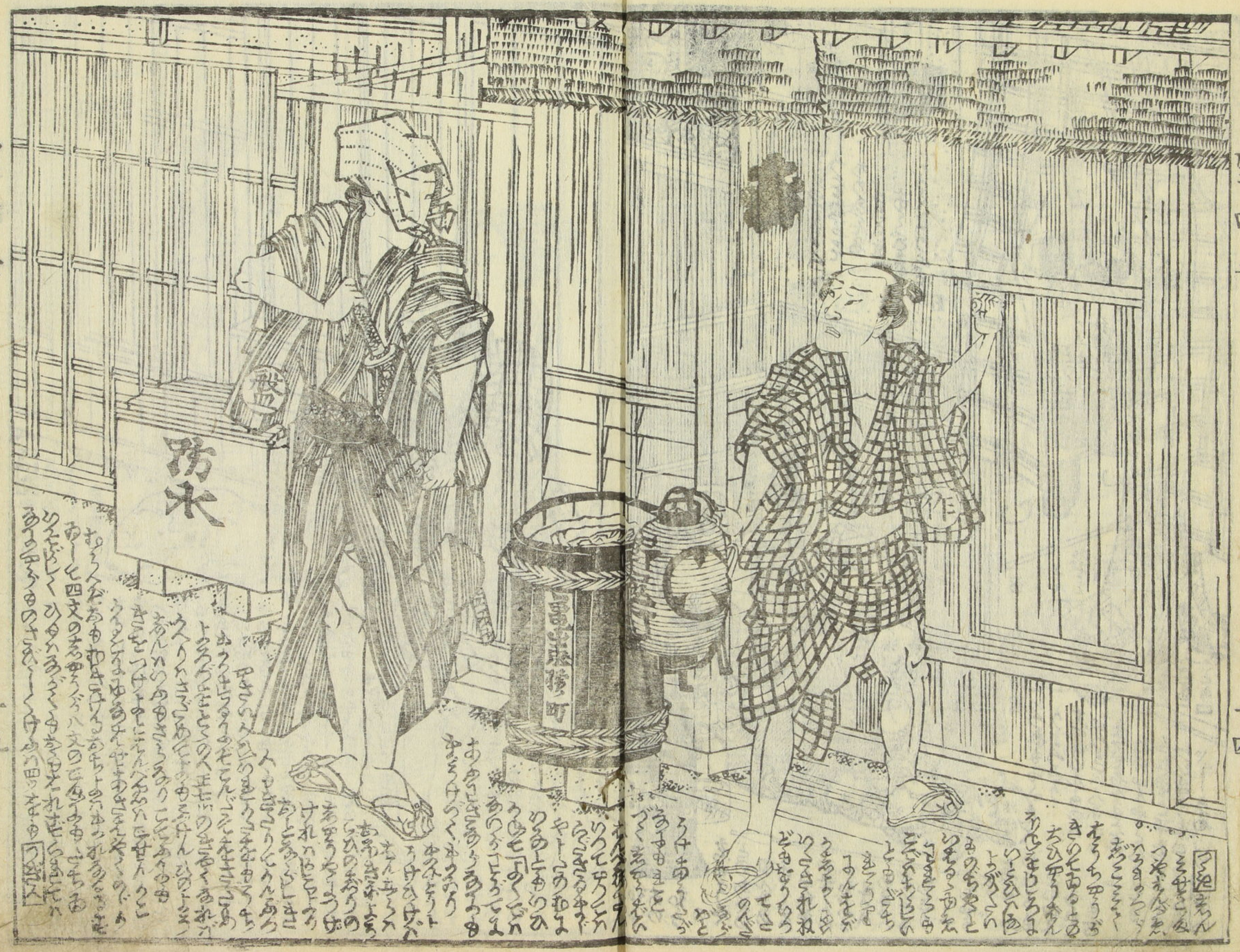
遊廻拓吉憑佛力

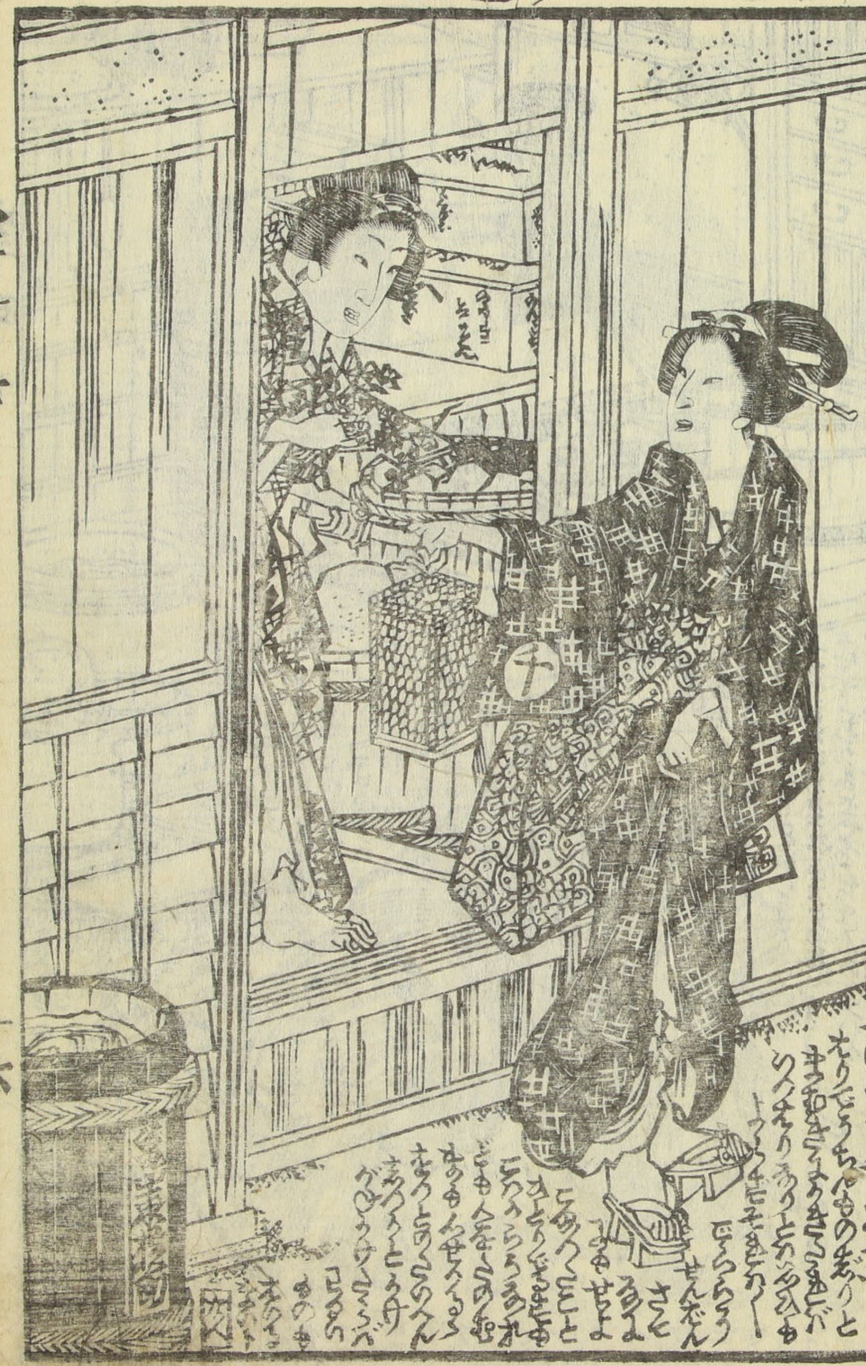


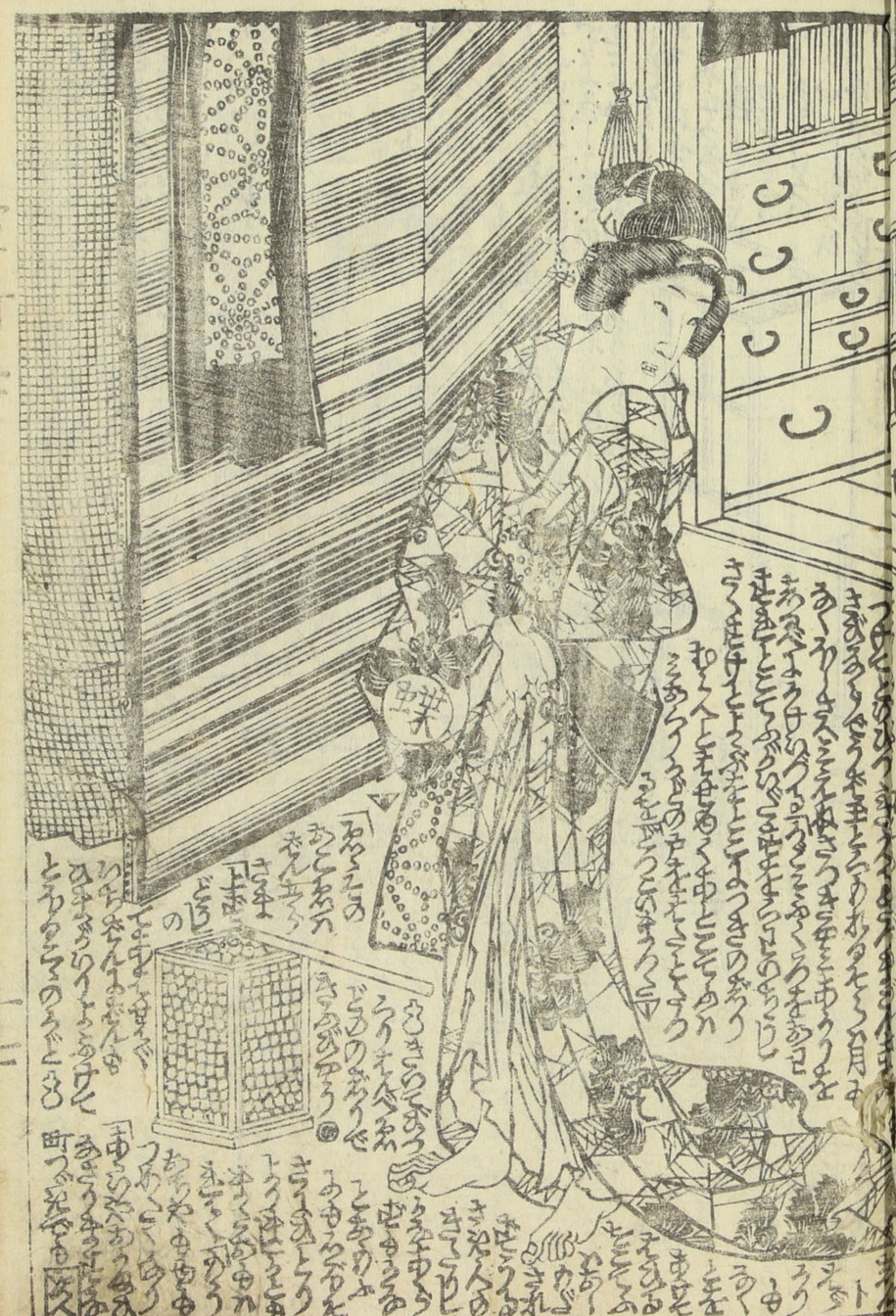
種彦著
國貞画

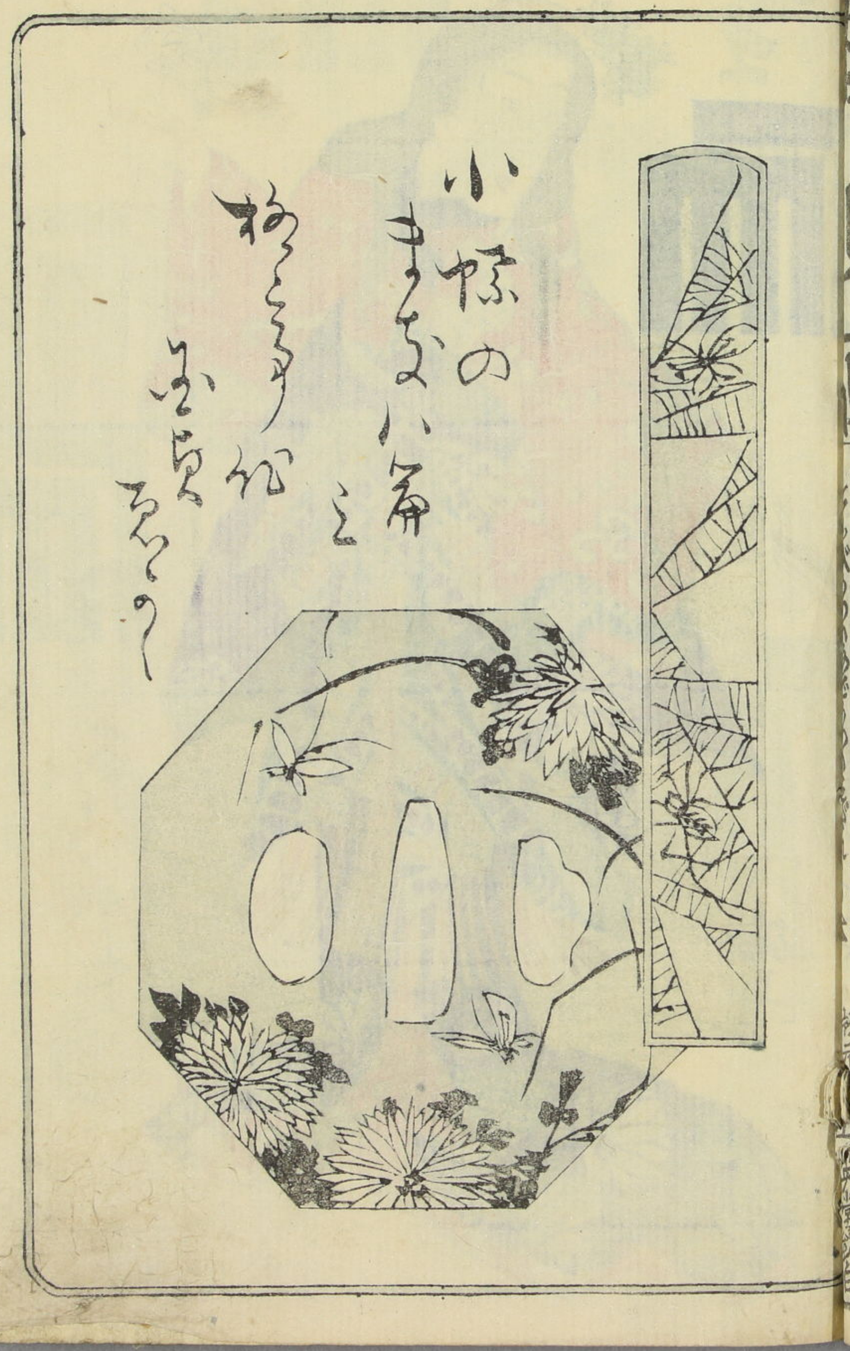





防水
作







種彦著

國貞画

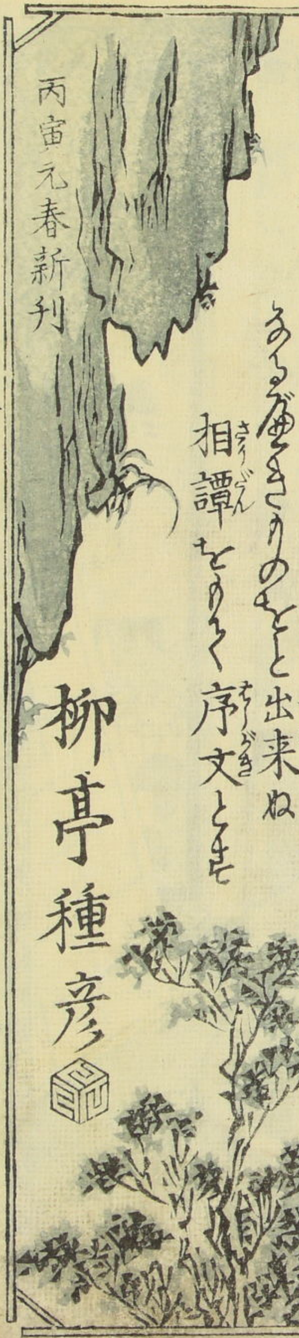
八編下
八編上

小蝶巻

小角

柳亭種彦

梅堂様



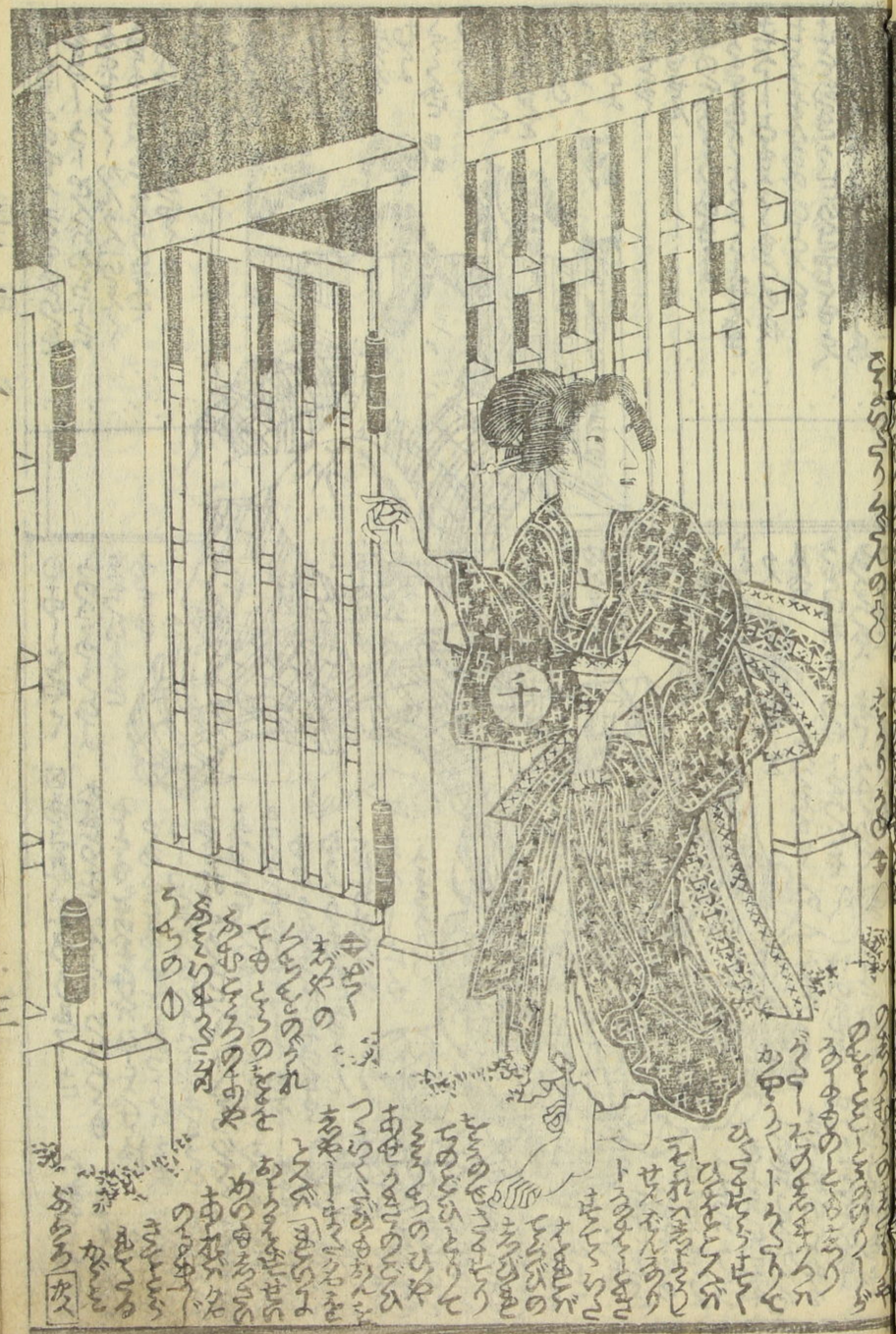
清人姚之駰が題林新詠に南海志を鈔して羅浮山に蝴蝶洞有て雲峰巖下に在古木叢生たり四時綵蝶出づ世に葛仙の遺たる衣の化する所といひ傳ふとあり毛虫蠶の類の蝶となるは奇しからぬ着服とは頗怪し尾張の画家玉仙翁の庭に栽たる芳宜の葉に痘瘡の如き物出来しが蝶となりて飛去しを僕眼前見たるを思へば其氣を稟備まば何物にても化生するにや願くは愚が筆力草冊子を作とれざりぶに蝶とも あらば輕くもありて花の園生に戯るゝ華奢な詞も綴らるべきを編數ばかり蜂八と通ぜとありて七むづかしくのみありぬせめてこれ河豚の肚裏にある蝶ともあらば當ると云縁喜ゆも あるべきものをと出来ぬ

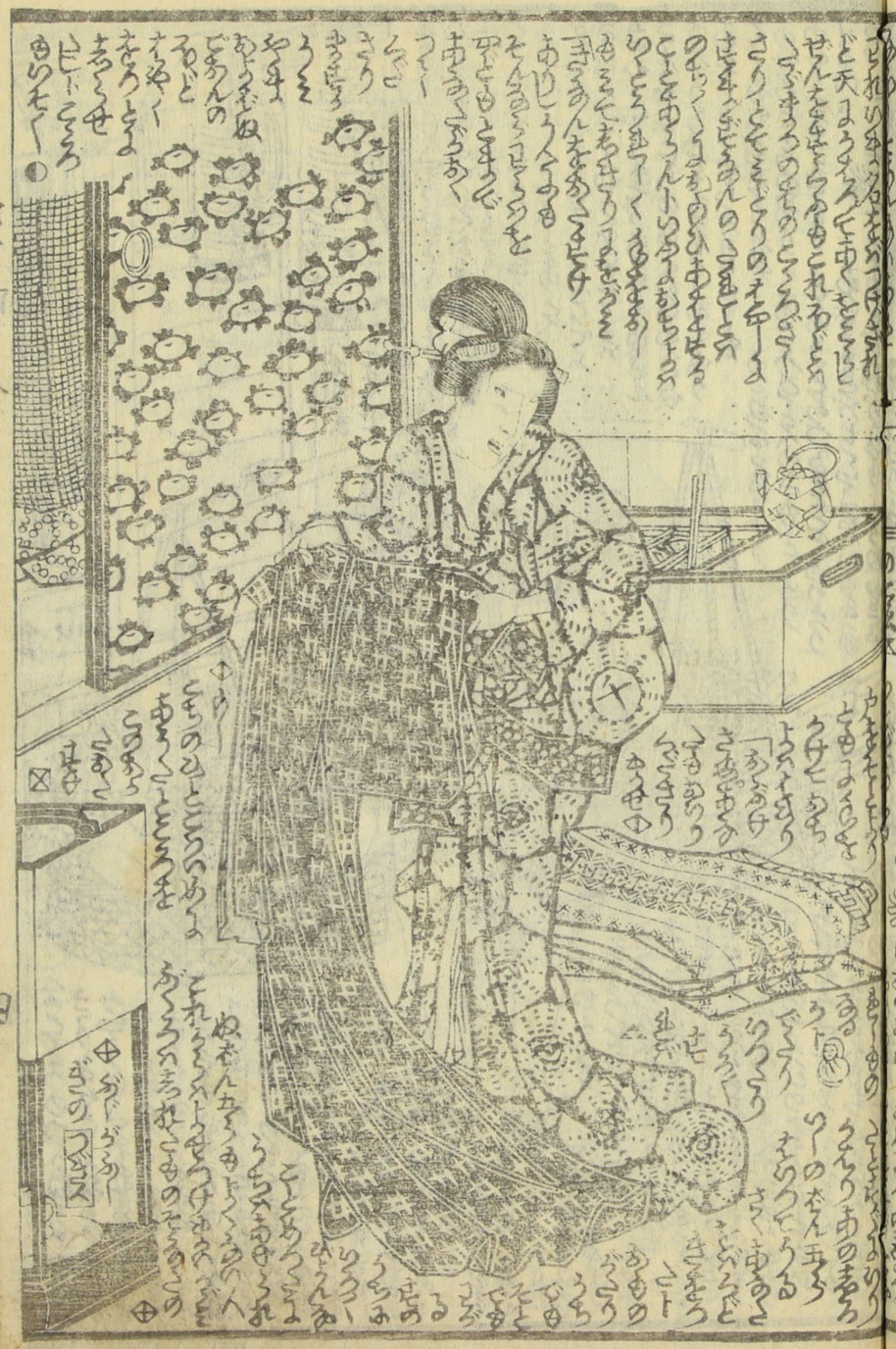
相譚をもらく序文とす

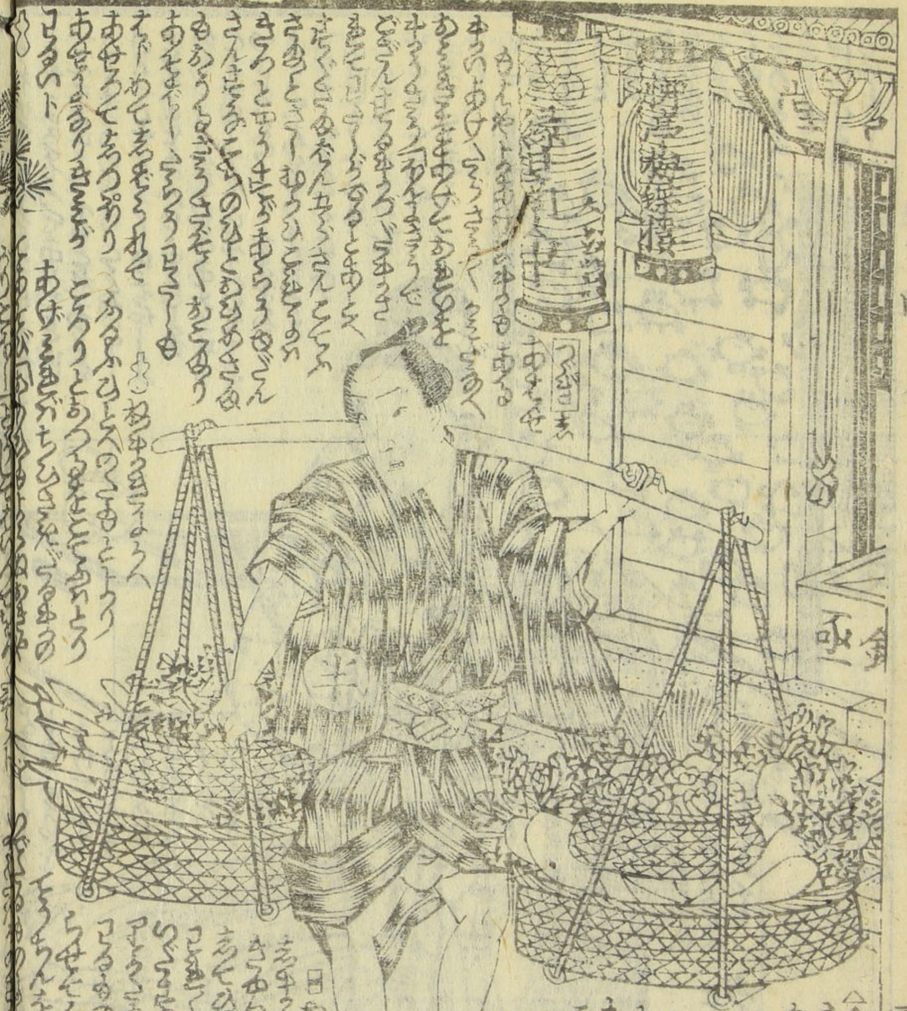
柳亭種彦

丙寅元春新刊

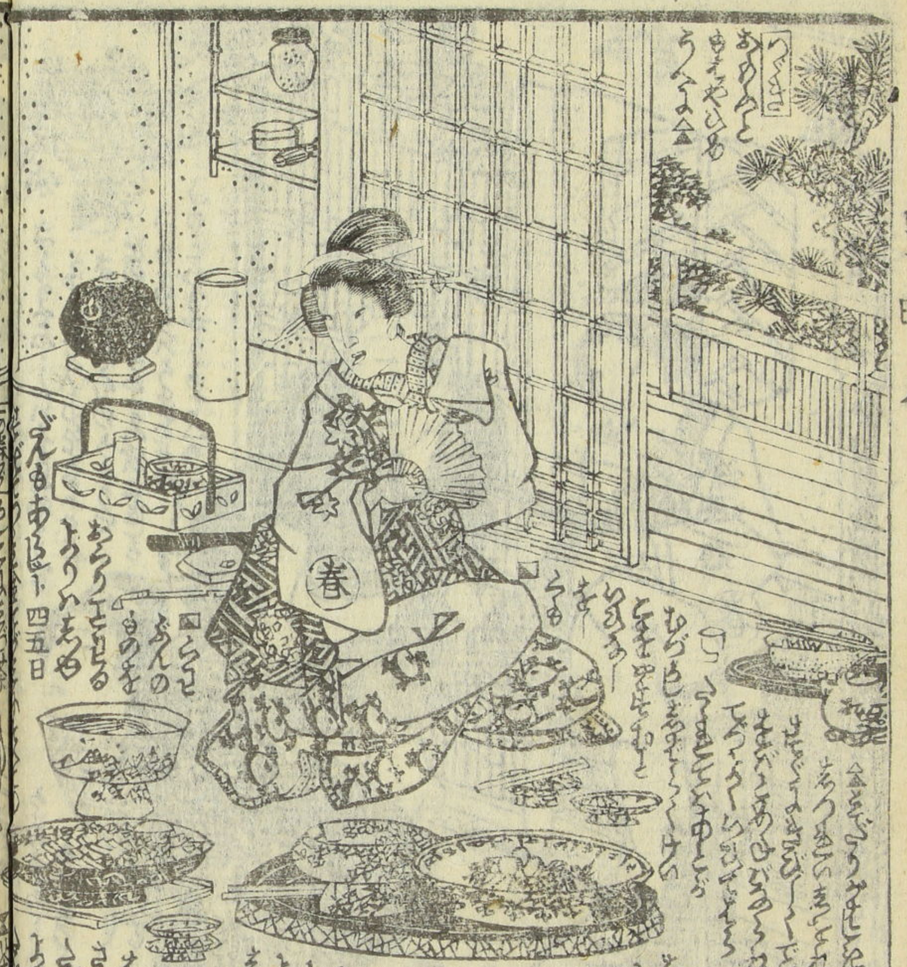
三澤冰三
秋津女兵衛を學ぶ

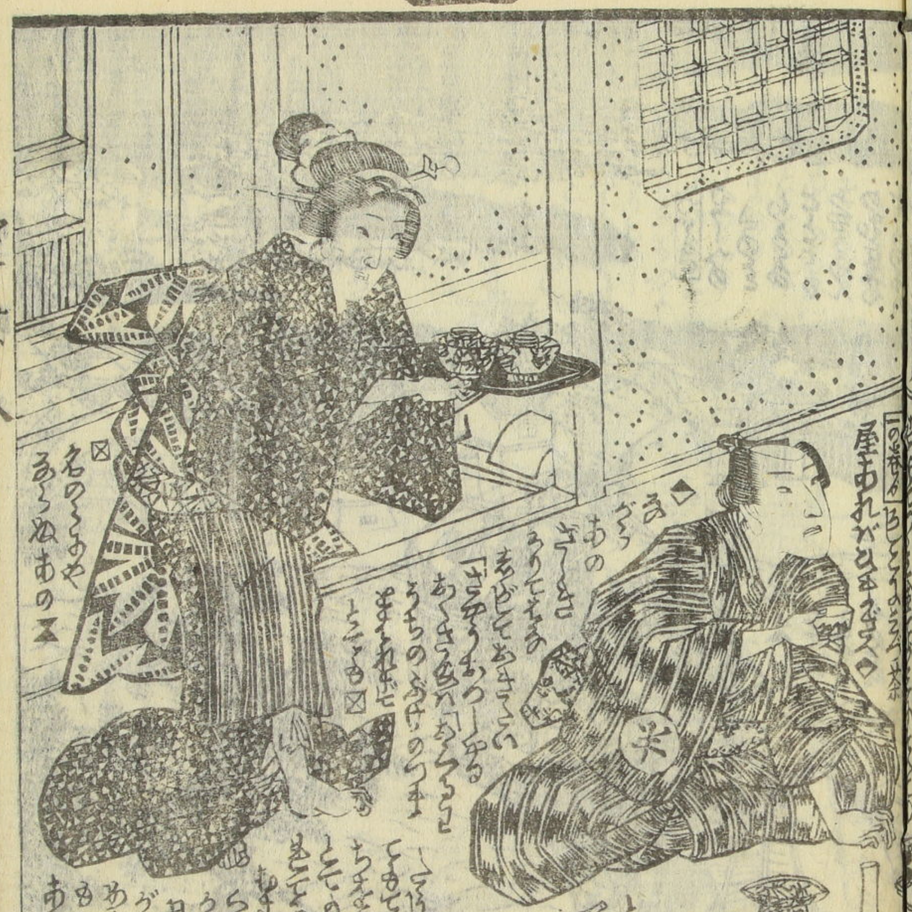




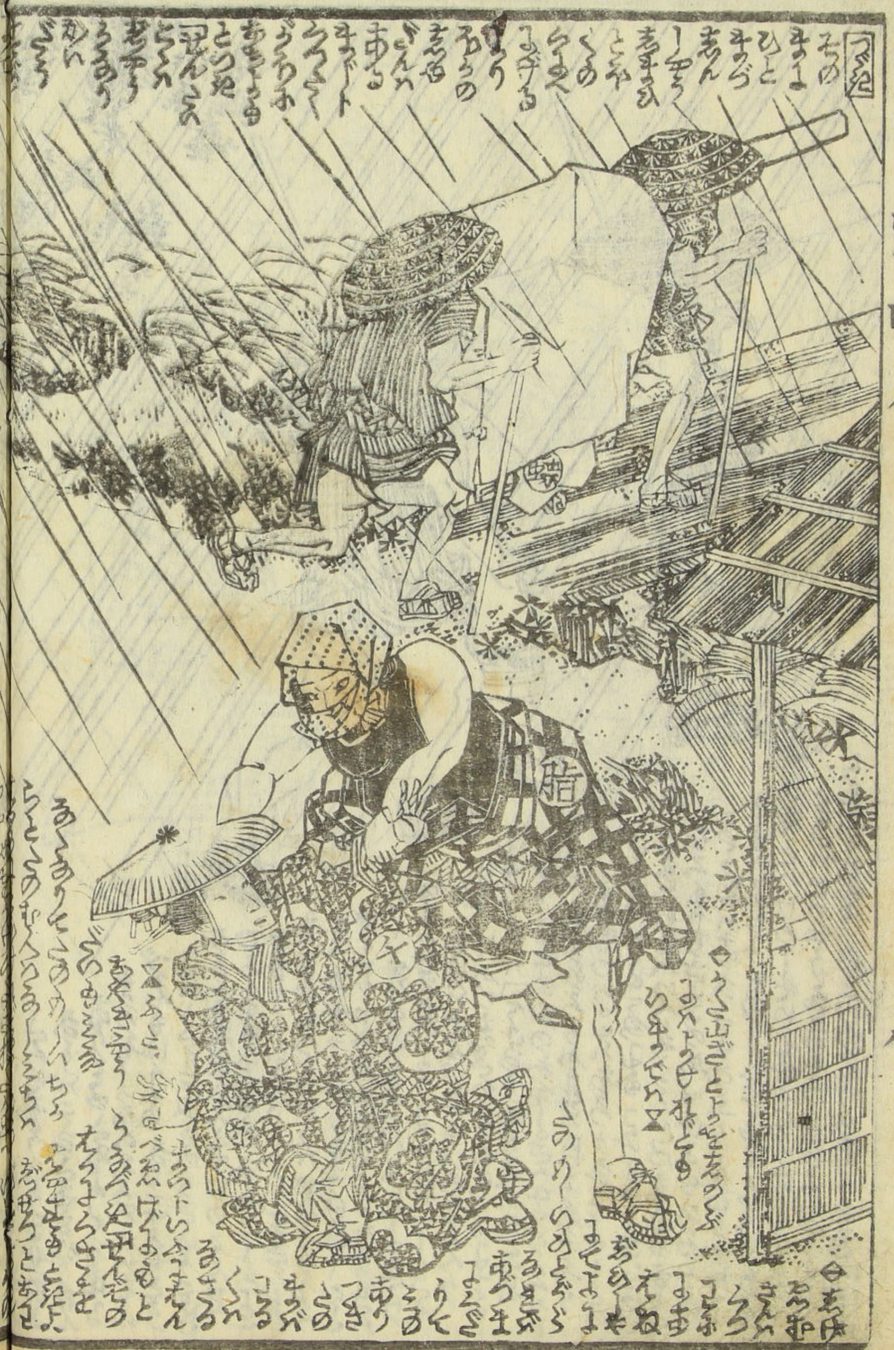


蘿
蔔賣

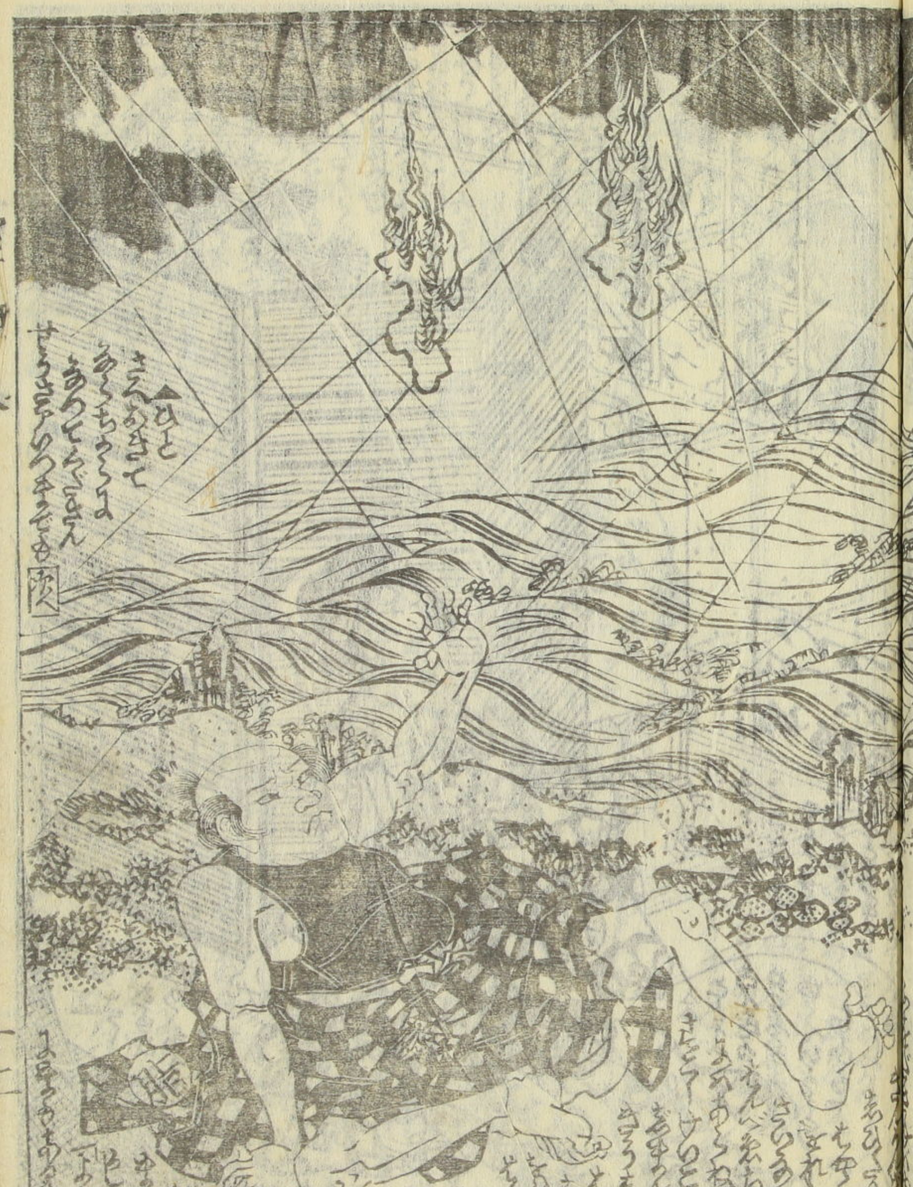




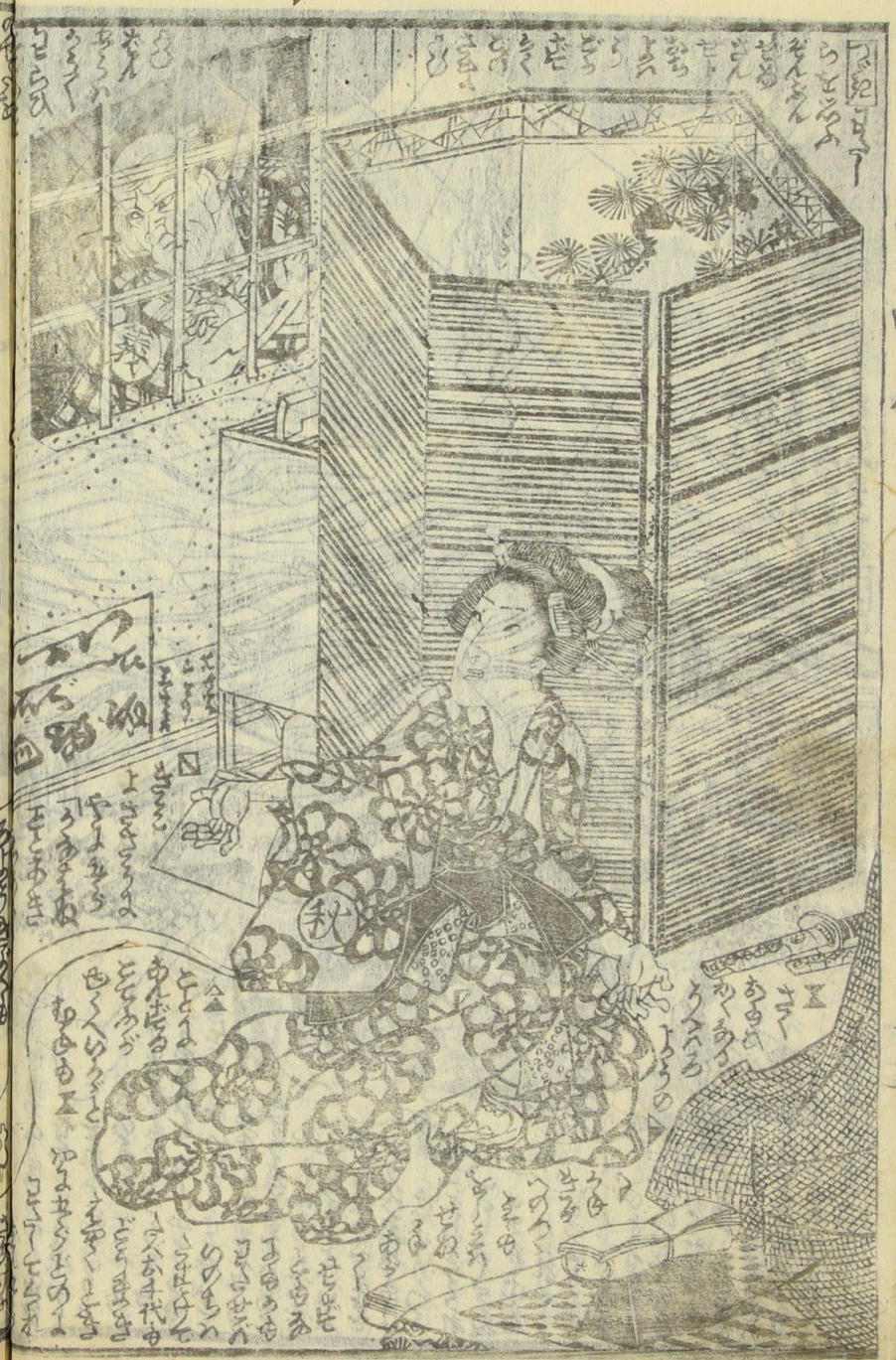
「つぎは　せんりこのうへあうざらのあるものあるもの
ヤムヤあくんでくをみつらし
まつそう「そのあくんにもりや
どらさまさまさうね
「ごらやとヤンてもの
えんらこそそうう
いあやくまあー
でもありこうこと
「のそれれのもの
みつくこべうてう
ふまでこあうう
こうさる
どれ
「あのうまあ
うきうう
ちこと
をそう
「のやく
ふくそくまくこ
さんなもの
うのののかなび
けのうのの
も



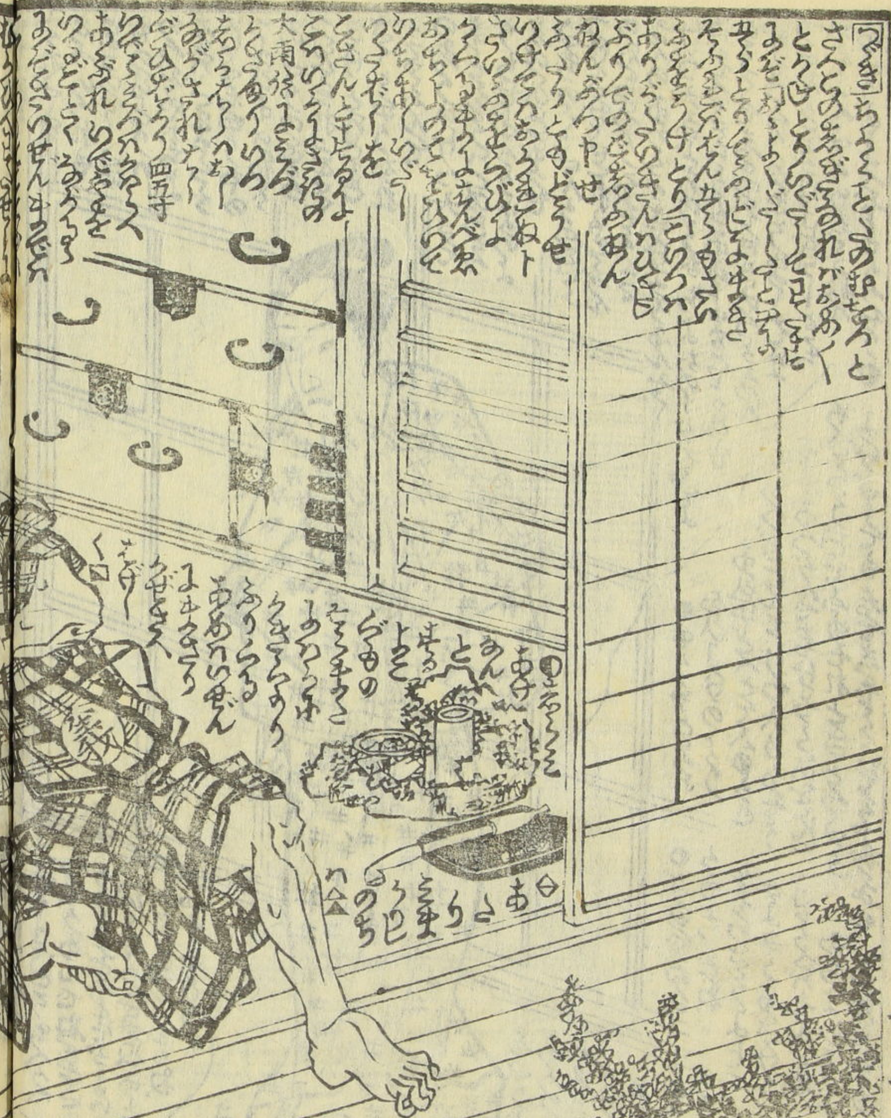
種彦著　國貞画

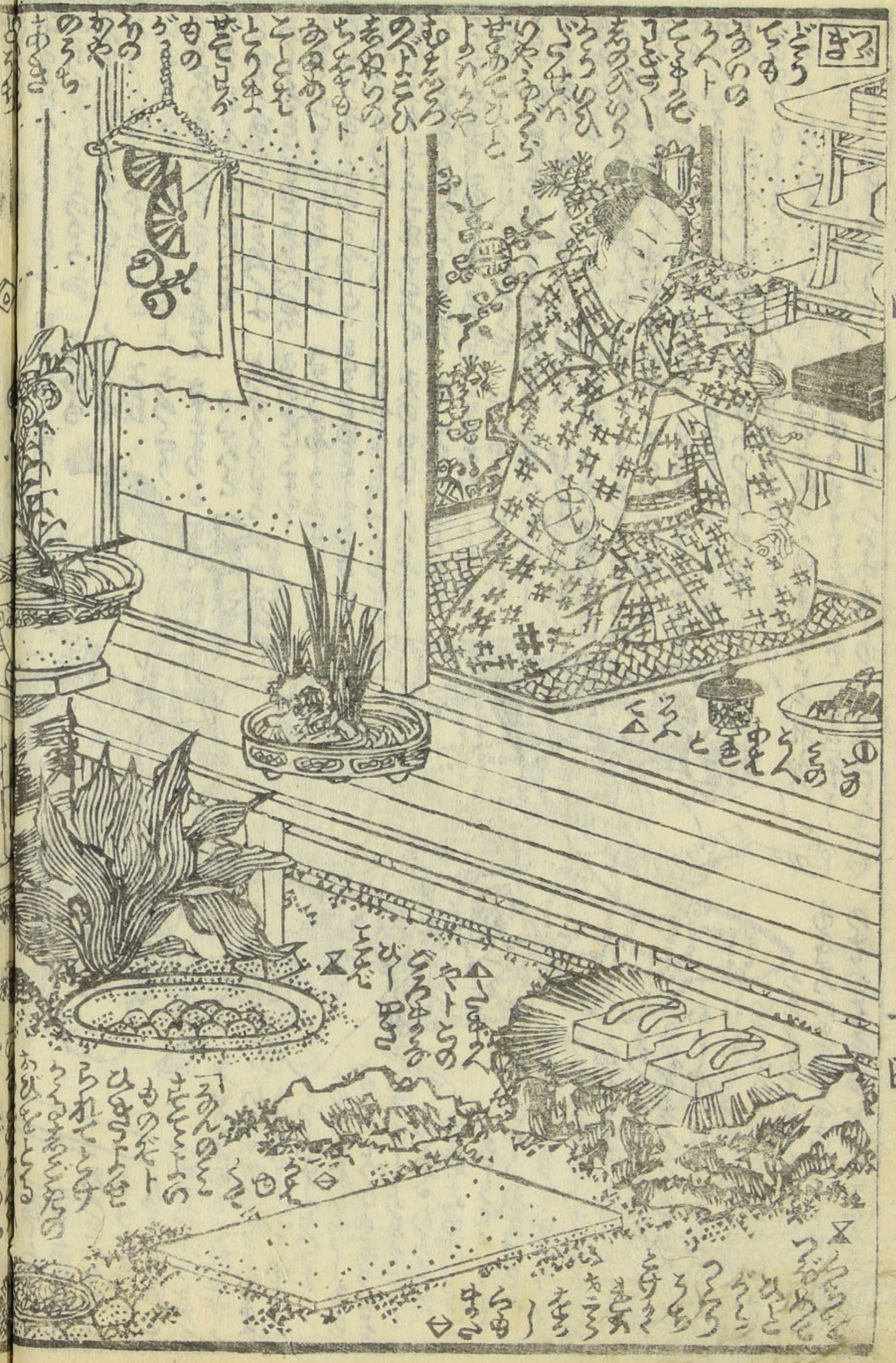


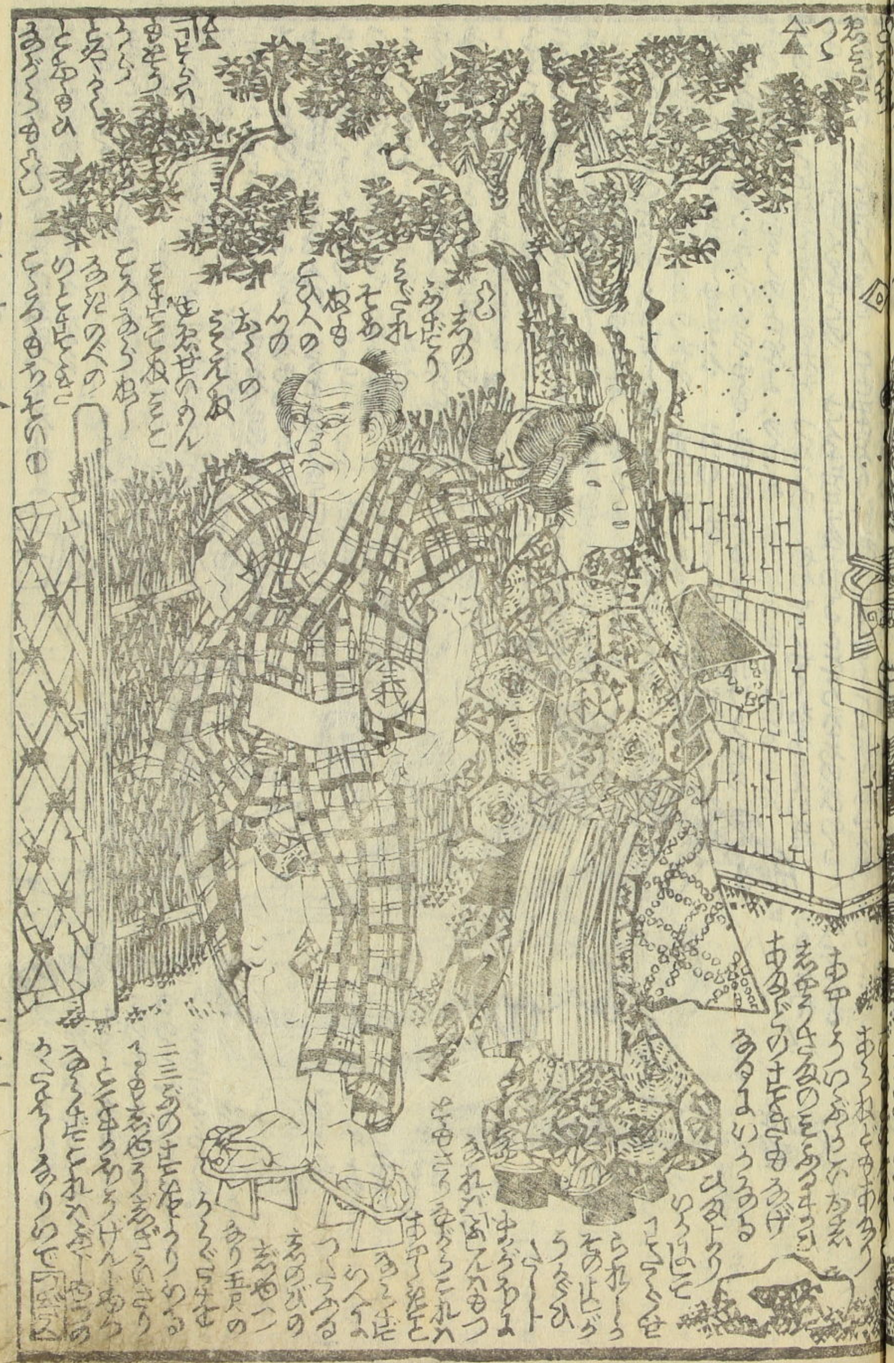
ひとさんおきてうくちちくうようあうそそくさんせうさうのつまそそ

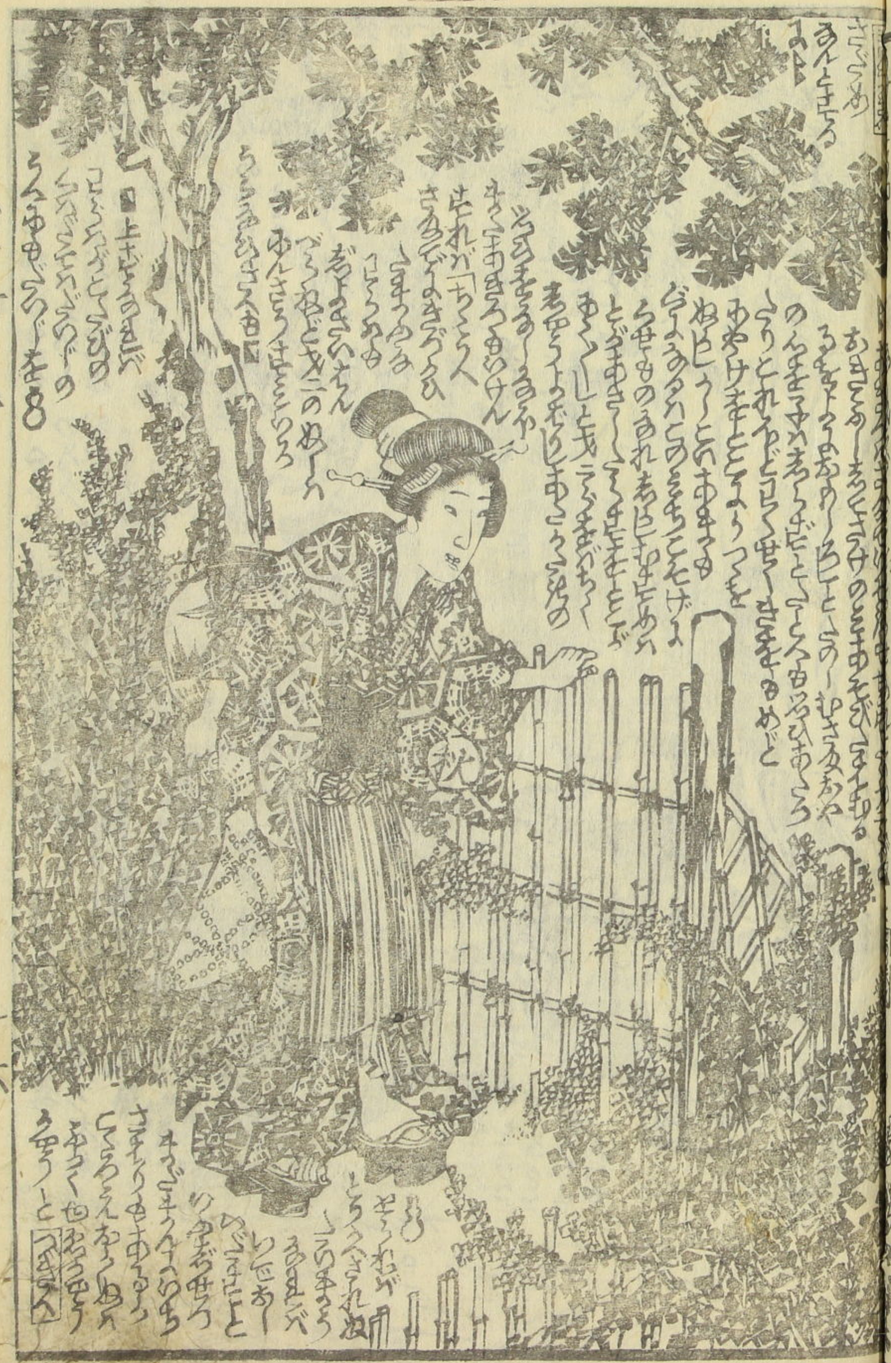

秋

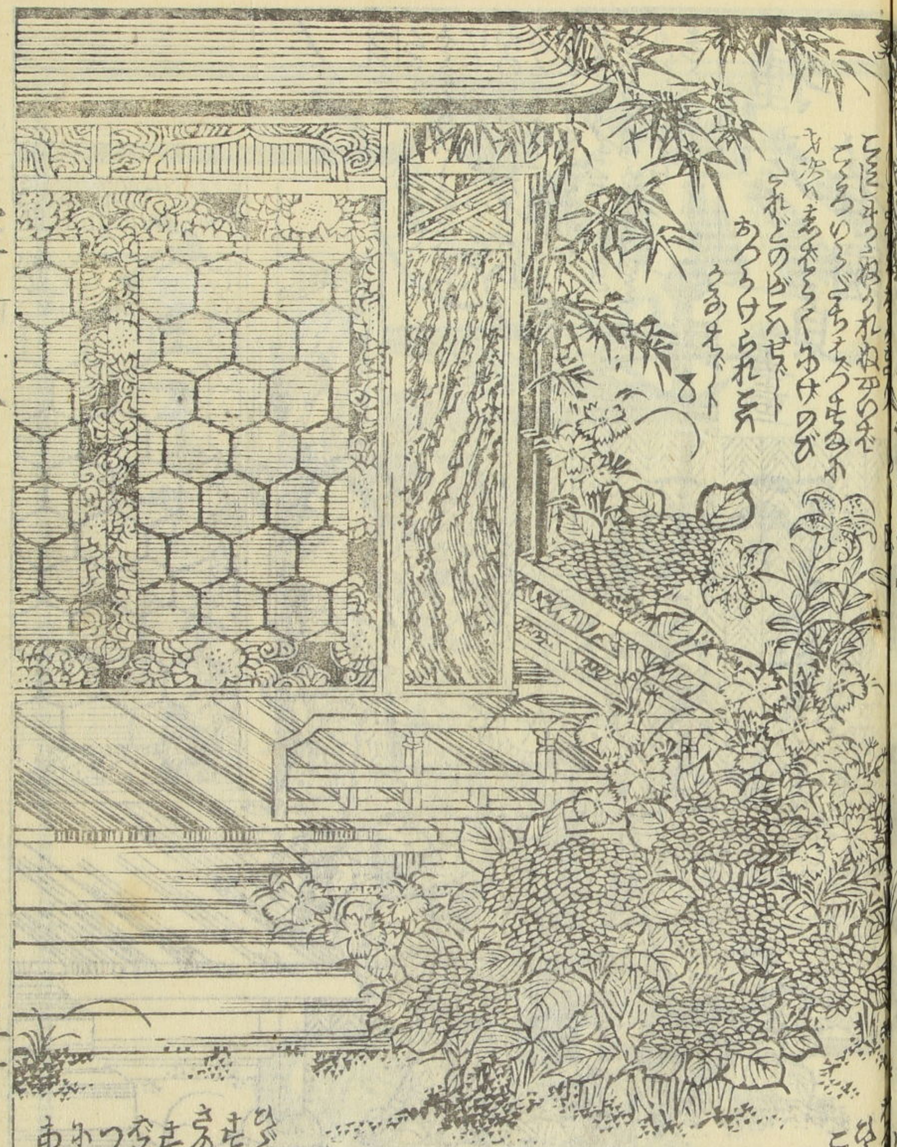
戌

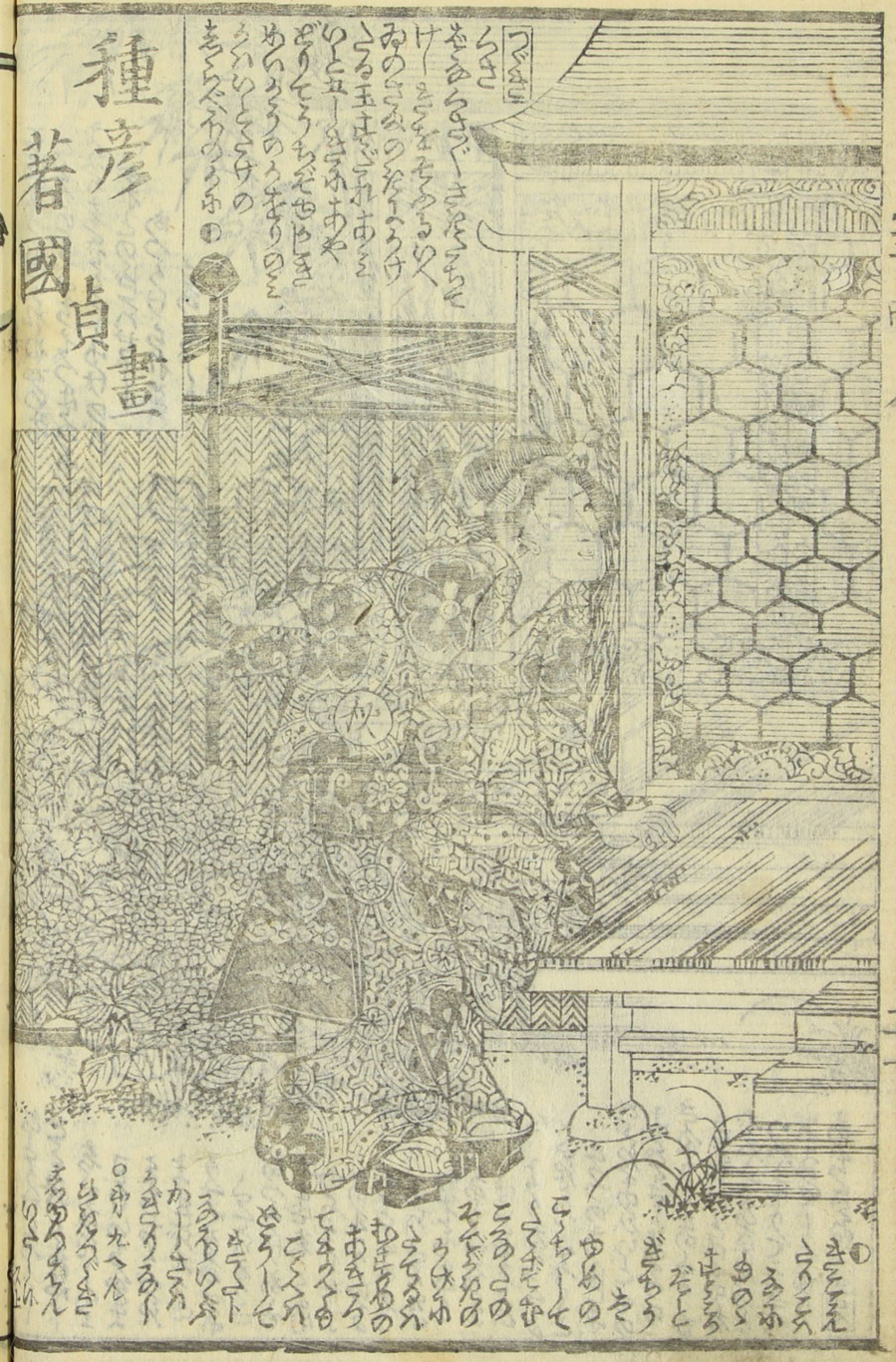


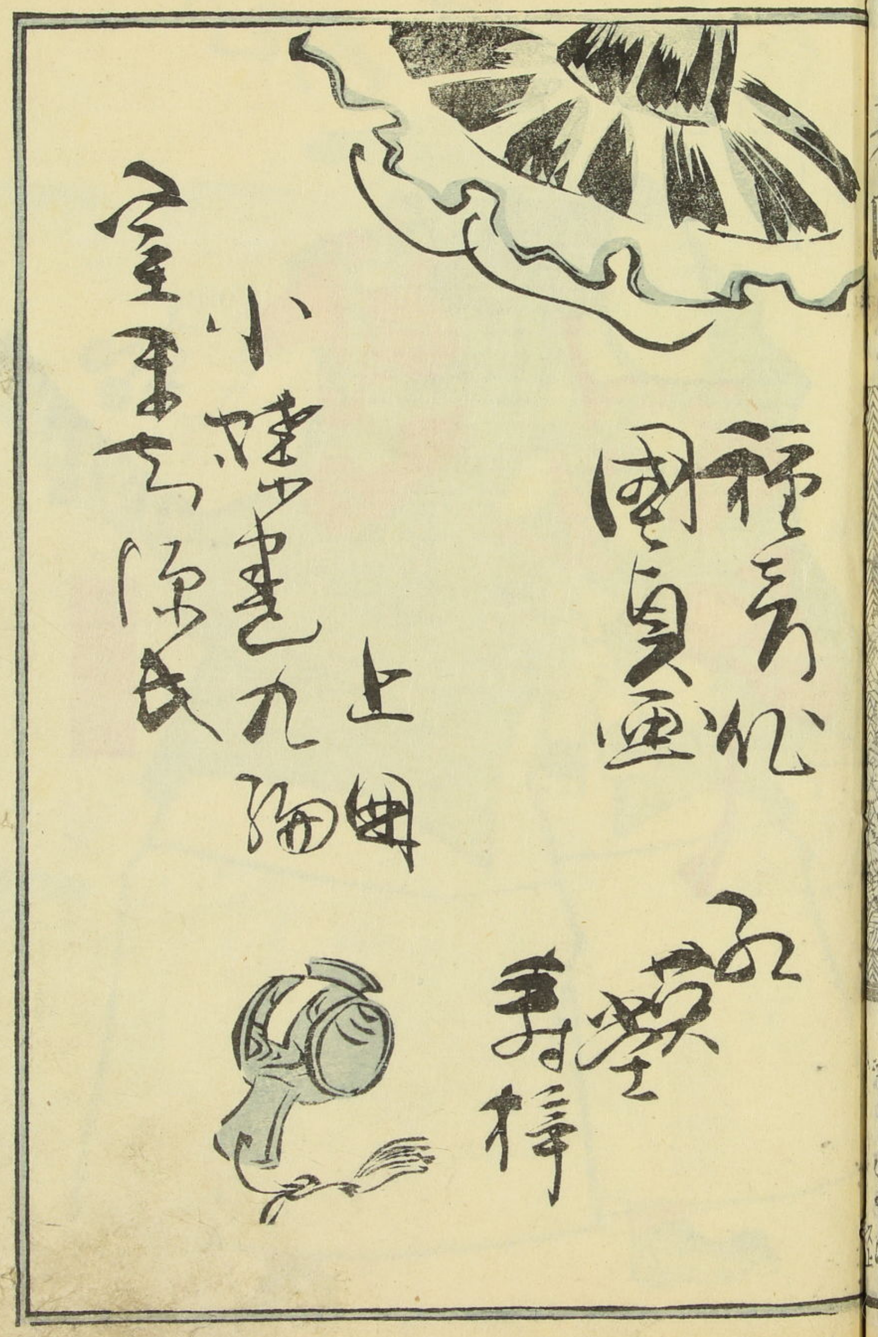









種彦
著國貞畫


種彦
國貞畫
上田
小陸畫九編
室事志源氏

九篇上
九篇下

小葉乃まき、
九泊で
柳亭にくる
國貞ゑ
たくたさ
てと洋き梓

余垣に云凡蟲といふ物世に用ある
いと稀なり。蚤虱。天厭。蚊。蠅。い
もとより。馬蚿。蚰蜒。害いあるも
蟢子の智あるも人に利なし。
賞るの外なし。蜜ある蜂に毒觜あり。惡血を吮
蛭い鮮血も吸ふ。唯害なくて大益あるい絲を生ずる
蠶のこと此蟲の巨功なく。諸蟲の無用を贖ふべし。此蟲化して蝶となる
蝶も無益の物なれど。飛交風情憎からず又夏虫の尻燒も地さゞめぞ
闇夜を彩て羅に裹て亦涼し。松蟲鈴虫の類も此定とすべきものか。
其秋野の草冊子虫にてこれ此等なれども聲もなく又光なし。形容がかりぐ
都雅なる。蝶の名を喚室町源氏。更様の奇麗に愛しまゝふるゆい
能もあるまじくや

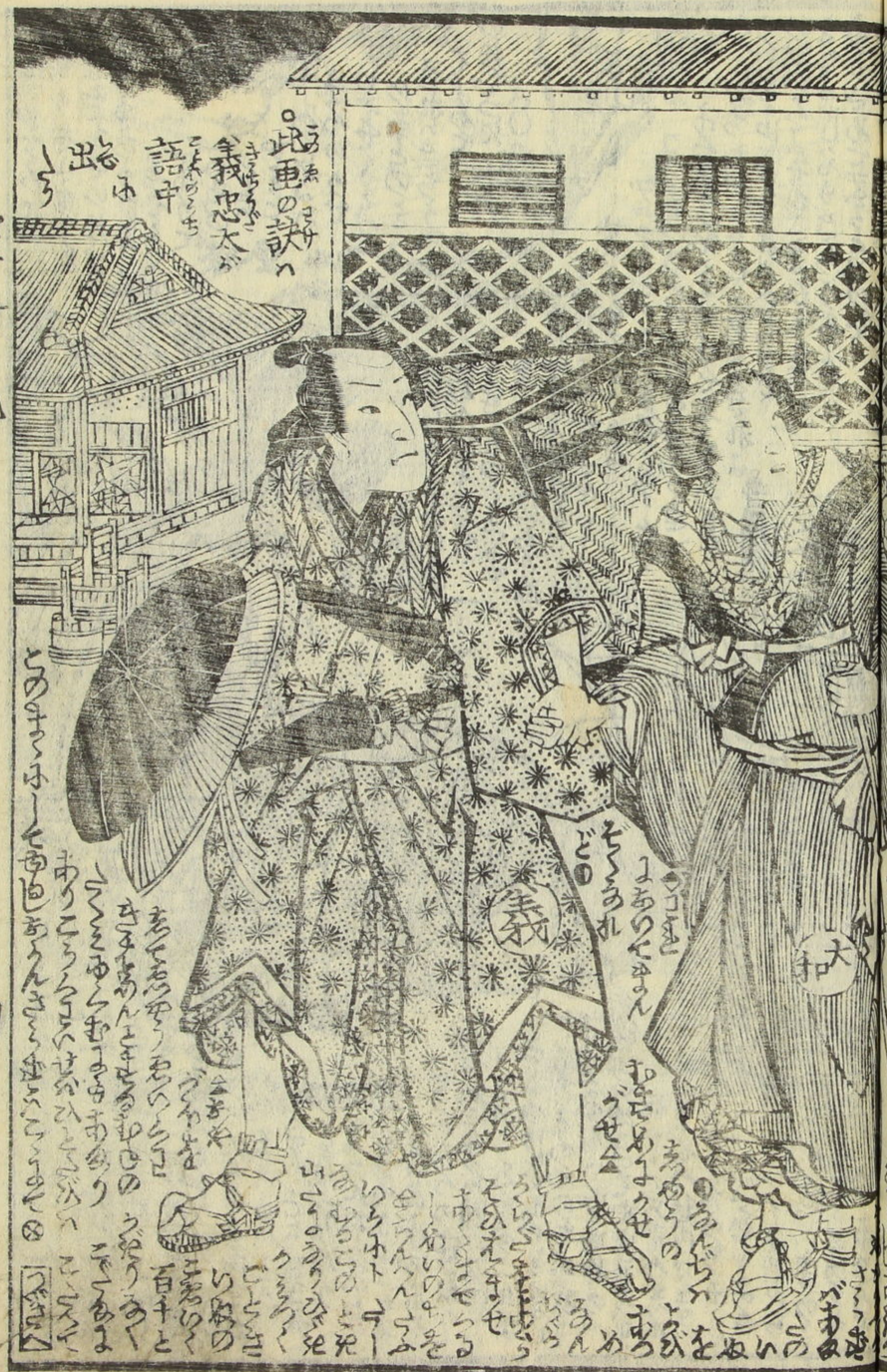
慶應三年開春　柳亭種彦

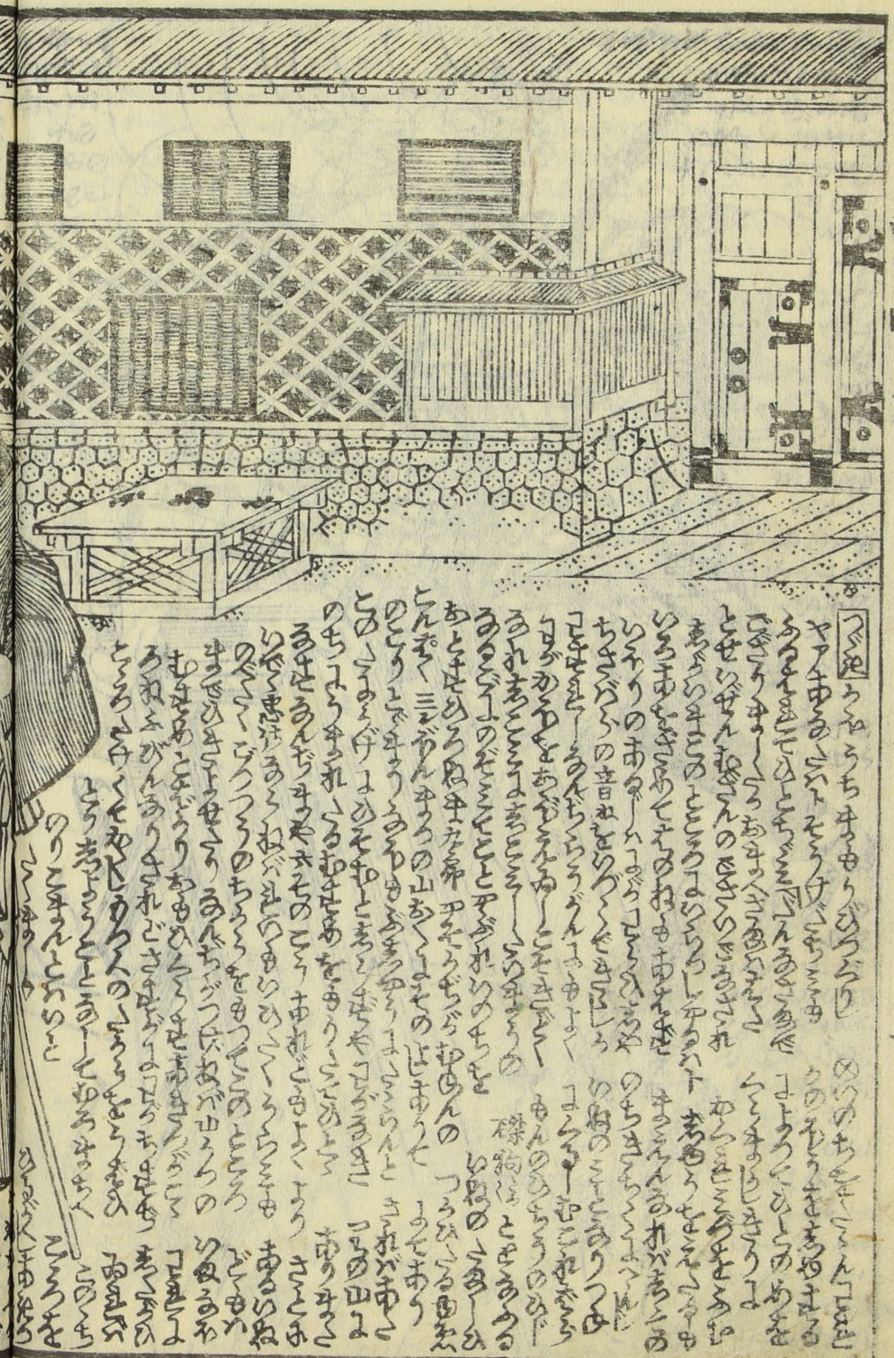
蟻の義あるも
ども益いなし。

六條三筋町一文字屋
深窓小娼於譽紫實ハ
足利通詮卿御女花園姫
假に胡蝶とも呼

廣沼九郎八十揖が
落胤其從僕
麻耶六の
義忠太公

子と爲て
秋津と
號く



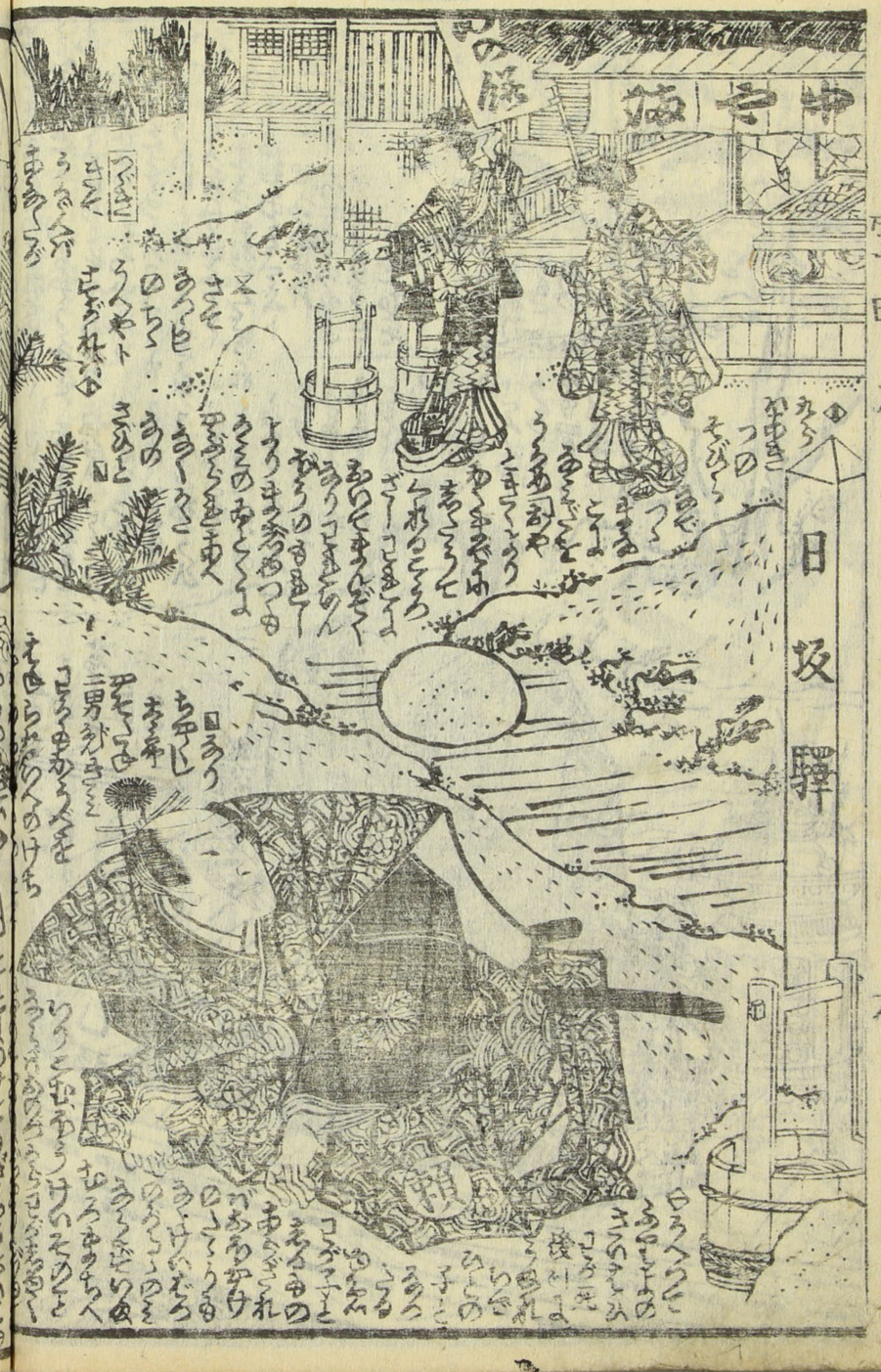


三田ガ

つゞき

ろうそくのうち半もうどうどうり
やアまあおいおいそうけさもうこ
ふるそまこでひとちゞこ
ごろうきゅうくうおさんのさくらのさくらさ
とせいぜんむさんのさくらのさくらさ
まあらのまこのところのこのらしてうまと
いろまをさめてそのれもまをを
いそりのおるーいこのうこうこうめ
ちさゞくうの音ねをのづくぞきしう
こそせんーうのんちうえんまよく
つがかうをおもそうーこそさこと
うれまこととこうまこと
あとまをうろ牛ふ弟
とんぞく三ぶんおろの山おくまそのはまうそ
のとうこでまうこうのもふまうまさらんと
とのこうのくけーよのそもとまろくせそ
のもこうまれくるむせあをまうこそのとう
ろませろんぢまれくるむせあをまうこそのとう
いぞくまはうろねばれのものひくくうらうこそも
のくくごうつうのちろくをもつそこのところ
までのまこうせうろんちゞつばあがゆろの
むをあこそうろもひろくのせまもこうゞこと
ろれふびんろくされごさまれゞこのろうもせも
とろろみくそやKろろくのろろくをもうそをの
とうまようこととうのーそおろまちく
のうこまんといいと

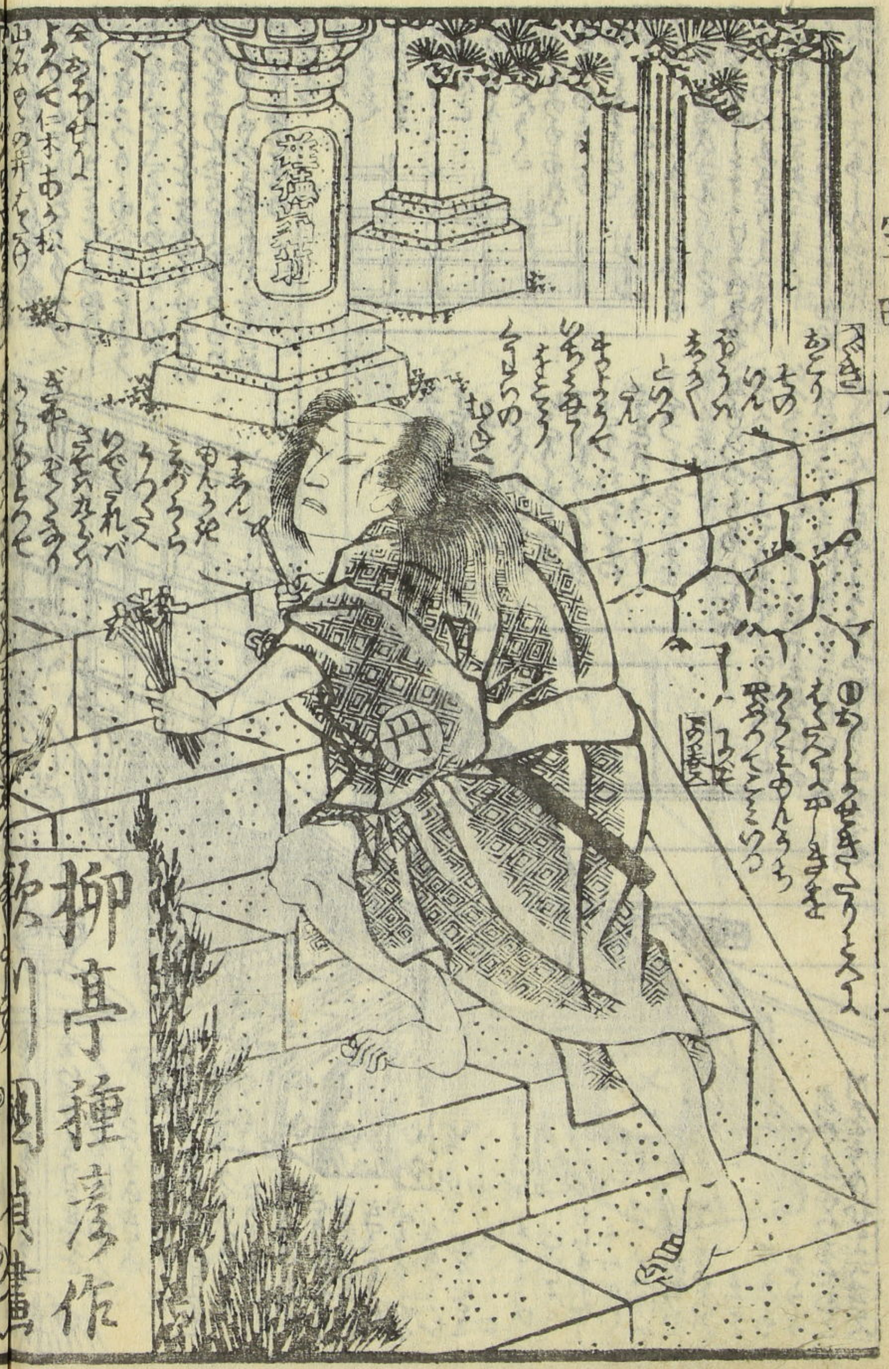
めいのちをくくんこと
うのそうまをまもまる
こようろくひうのあを
んくまのしまうこ
おんこまこうをろ
まろうもんろんくやも
まこんんのれがちこの
のちまこちくくへんし
りのおのこことうつこ
こうそーむこれをそう
もんのうちうのひご
様ねいとこそうろる
いねのうーみ
つうひくる田え
うそまう
さそれがもさ
この山よ
まりみく
さことも
まるいねど
もいあうか
こまーよ
ちくぐりも
みまこ
いとそ
ろうこうをこのち
こうそ


日坂驛

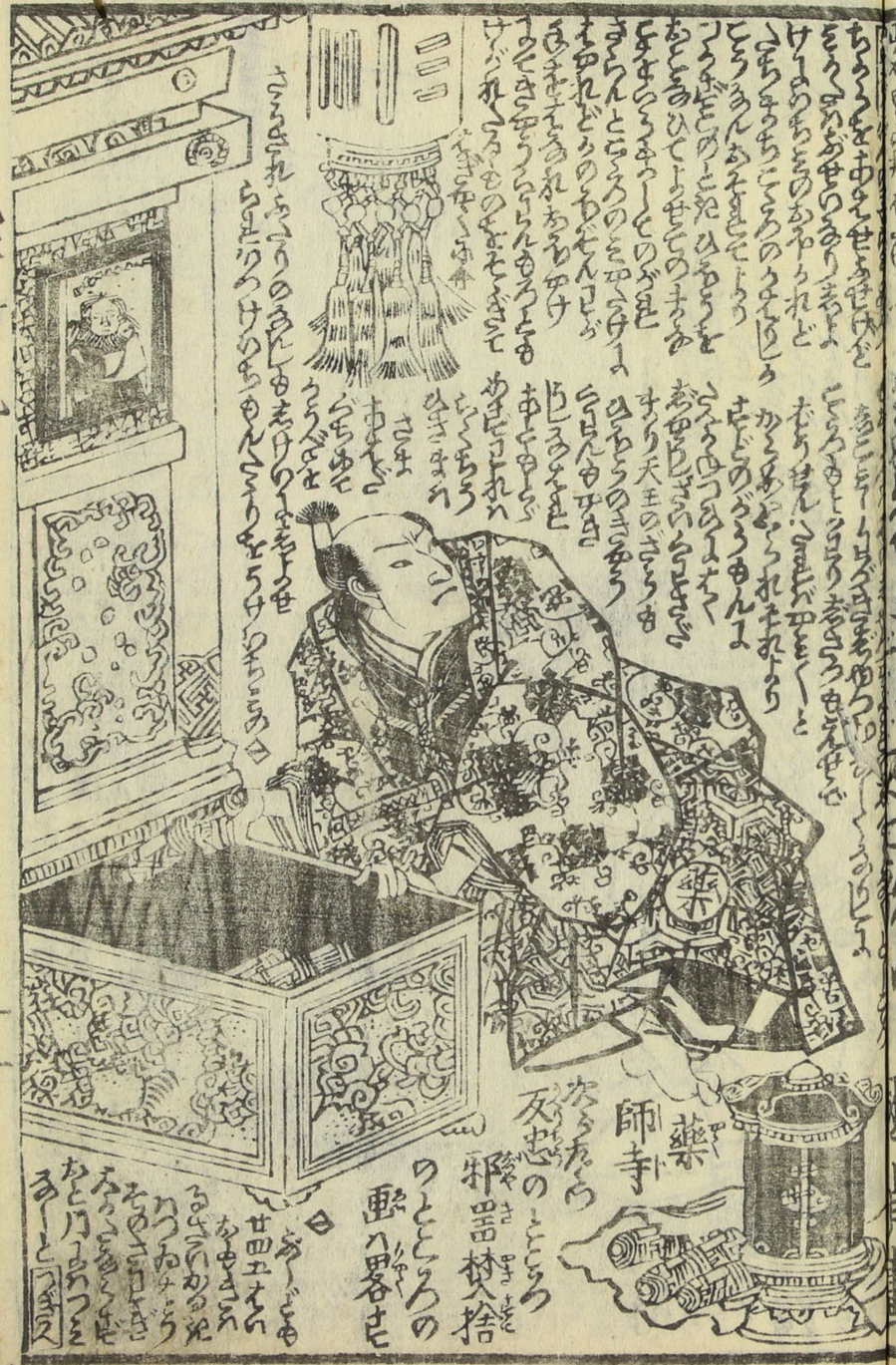
尊
頼

九

頼



柳亭種彦作
歌川国貞画



九

赤
頼

廣沼九郎首級

九郎首級

柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画
版主 紅英堂欽白

七ぬしぎ葛飾譚 五編より 八編まで 柳亭種彦作 梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶巻 八篇 九篇 十篇 十一篇 種彦作 國貞画

筆海四國聞書 十一編 十二編 十三編 種彦作 國貞画

假名情談戀畦倉 四編 大尾 如皐作 國貞画

明鴉墨画迺禰福 十一編 十二編 十三編 種彦作 國貞画

童謡妙々車 廿編 廿一編 廿二編 種彦作 國貞画

花封答玉章 十編 大尾 種彦作 國貞画

薄俤幻日記 十五編 十六編 十七編 春水作 國貞画

八犬傳大の双紙 四十八編 四十九編 柳亭録 國貞画

地本双紙問屋 南傳馬町壹丁目 蔦屋吉藏板